

第22回 会長の時間 職業奉仕月間に因んで 1月12日

成人の日も終わり、寒さが強まる時期に入りました。先週お話ししました様に、宇部市ではA型インフルエンザが流行しております。宇部市医師会では、平成21年から、毎年1月第3水曜日（今年は1月18日）をインフルエンザの日と定め、市民に咳エチケットを守って頂き、インフルエンザの流行を防ぐ啓発活動を行っております。是非、ご協力をお願い致します。

さて、1月は、ロータリーでは、職業奉仕月間です。本日は、職業奉仕についてお話しします。職業奉仕は、ロータリーの1丁目1番地といわれ、ロータリー活動の中心をなしていることを意味します。「職業奉仕」をひとことで言うと、職業活動自体を通して社会に奉仕するという倫理感だといわれます。

ここで、社会奉仕と職業奉仕の違いについて理解しておいて下さい。「受益者が誰であるか」ということで区別することができます。奉仕活動によって、受益者が自分以外の地域の人々、もしくは地域社会の場合は「社会奉仕」であります。奉仕活動によって、受益者が自分自身の場合は「職業奉仕」です。

さて、人類の歴史から観ると、自給自足から、分業や物々交換へと変化する中で職業というものが登場し、同時に生産性の画期的な向上が達成されました。本来、職業とは、社会全体の生活レベル向上を目的としていました。つまり職業の始まりは「職業活動自体を通して社会に奉仕する」という職業奉仕の考え方そのものでした。その後は、お金が登場し物々交換から貨幣経済へ変化し、産業革命によるさらなる生産性向上、自動車社会による人と物の移動、新聞・ラジオ・テレビ・インターネットによる情報交換が実現しました。そしてお金さえあれば生活に困らない社会が形成されていき、職業の目的はいつの間にかお金儲けが主役へと変わりました。その結果、倫理観が欠如した拝金主義にむしばまれた時代の1905年2月に、シカゴでロータリーは生まれました。

「互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい」という趣旨で、ロータリーは始まりました。従って、職業奉仕はロータリーの1丁目1番地であると考えます。

しかし、重要な問題は、この先にある職業奉仕の実践です。多くの場面で職業奉仕と利益とは相反することがあります。いわゆるお金を儲けるための手段としての職業と、世の人のための奉仕という全く正反対の2つの言葉が1つになって職業奉仕という言葉になっているためにわかりにくくなっています。この職業奉仕という言葉は完全なるロータリー用語であり、辞書には載っていません。すなわち、ロータリーの職業奉仕とは、「職業を営んでお金を儲けることが、世のため人のための奉仕となる」といっています。そこで、ロータリーで

は、この問題を理解するために、職業を営んでお金を儲ける心も、奉仕の世のため人のために尽くす心も同じ一つの心であるとしています。(泉南 RC 角谷浩二氏の文献より) この言葉は何を意味しているのかというと、それは自分のお金儲けに対して、「人を泣かせたり、人をだましてお金儲けをしてはいけない、非道徳的、非社会的行為をしてお金儲けをしてはいけない、世のため人のためになるようなお金儲けをしなければならない」と言っています。もし、ロータリーの職業奉仕を一言で表現するなら、世のため人のために奉仕する心をもって職業を営むことと言えます。

昨年度の規定審議会でルールは少し変わりましたが、ロータリークラブは毎週毎週、なぜ例会を開くのでしょうか。それは、卓話を聞くために出席し、卓話を聞いて職業倫理を学びます。我々は職業人の集まりです。例会に出席することにより、職業人同士の体験談、知識、知恵等を耳にして、職業倫理を互いに学びあいます。しかし卓話は聞いては忘れてしまうものなのですが、何度も何度も聞き、そして忘れていくうちに、次第に自分自身が磨かれ、ロータリーの職業倫理が身についていくものと考えます。そして、例会の最初に唱和する、「4つのテスト」や「行動規範」もしかりです。

ロータリーには必ず毎週1回の例会に出席し、会員同士お互いに心を磨きあってこそ、真のロータリーあるべき姿だと思います。本日は、職業奉仕月間に因んでお話ししました。